

大成ユーレック株式会社

大成ユーレック株式会社
代表取締役社長あおき たく
青木 卓氏大成ユーレック株式会社
取締役常務執行役員 建設本部長しげむら まさよし
重村 正典氏鉄道コンテナ輸送で自社の“強み”伸ばす戦略を加速
環境貢献に加え、「2024年問題」対策も

大成建設のグループ会社として、PC（プレキャスト鉄筋コンクリート）部材を用いた集合住宅の建設を主な事業内容とする大成ユーレック。「物流の2024年問題」が顕在化し、大型トラックによる長距離輸送の維持が大きな課題となるなか、2023年6月から自社工場～建設現場間のPC部材の輸送で鉄道コンテナの利用を開始しました。今後は、環境負荷低減効果が高いPC工法による施工比率をさらに高めるため、無蓋コンテナの活用を視野に入れるなど、鉄道コンテナ輸送の利用拡大を検討しています。同社の青木卓社長と重村正典常務にお話を伺いました。

（2023年6月取材：ご所属、ご役職は取材時のものとなります）

■自社工場～建設現場のPC部材輸送で鉄道利用を開始

大成ユーレックは、大型コンクリートパネルによる集合住宅建設を主体とする企業として、1963年に大成建設の住宅部門から分離独立し設立されました。PC部材を用いたマンションなど集合住宅の建設を得意としており、川越工場（埼玉県川越市）と千葉工場（千葉県千葉市）の2カ所に製造拠点を構えています。PC工法は、工場であらかじめ製造した鉄筋コンクリートパネルを輸送・搬入して施工現場で組み立てるもので、耐震性や遮音性に優れていることに加え、工事車両の削減や工期短縮などによる環境負荷低減効果が大きい工法です。建設業界は人手不足という課題を抱えており、少人数による施工が可能なPC工法は今後も拡大が見込まれています。

PC部材の輸送はこれまで、大型トラックで工場から建設現場まで運んでいましたが、トラックドライバーの労働時間規制が強化される「物流の2024年問題」が目前に迫るなか、トラック輸送だけに依存する体制を見直す必要が生じていました。また、当社はゼネコン業界では珍しくPC部材を自社で製造していることが強みになっていますが、その一方でPC部材の工場が川越にあるため、建設現場が西日本など遠距離にある場合、輸送コスト面との折り合いから在来工法を選択せざるを得ないこともありました。2024年4月以降、トラック運賃がさらに上昇すれば、PC部材のトラック輸送がこれまで以上に難しくなるという課題にも頭を悩ませていました。

そうした時、鉄道コンテナ輸送という輸送手段があることに思いが至り、トライしてみることにしました。鉄道輸送は長距離になればなるほどコスト優位性が高まることも当社にとってプラスでし、川越工場の近隣に新座貨物ターミナル駅があるという条件にも恵まれていました。テスト輸送では、あえて壊れやすい部材を選んでひび割れや欠けなどの損傷をチェックしたほか、振動計を装着して輸送時や荷役時の振動などを計測しました。その結果、輸送品質面で問題ないことが確認できたことから、本格的に利用することを決定しました。

2023年6月から8月まで、愛知県内の建設現場（5階建・362戸）向けに12ftコンテナ65基分の階段板を輸送したほか、同時期に広島県内の現場（4階建・75室）向けにも12ftコンテナ21基分のPC部材を運びました。両案件ともトラックで輸送した場合に比べ、CO₂排出量が65%削減、70%削減になるなど環境負荷低減効果が非常に高くなっています。また、23年12月にも、滋賀県で実施される建設現場（5階建・120戸）向けに12ftコンテナ67基分のPC部材を鉄道輸送することを計画しています。



川越工場を出発するPC部材を積んだ12ftコンテナ

■さらなる利用拡大を見据え、無蓋コンテナの利用も検討

鉄道コンテナ輸送を開始したことによる最大のメリットは、PC工法の比率を高めることにつながることです。鉄道輸送によって遠距離輸送がコスト面からも可能になることで、PC部材を自社生産している当社の強みをより発揮することができるようになります。また、輸送スケジュール面での許容度が高いことも鉄道輸送のメリットのひとつです。建設現場は天候などによってスケジュールの変更が避けられませんが、鉄道輸送の場合、施工現場近くの貨物駅で数日間はコンテナを留置することができるため、急な搬入日の変更などにも柔軟に対応することができます。

一方、鉄道利用の拡大に向けた課題は、鉄道コンテナで運べるPC部材をいかに増やしていけるかです。現在は12ftコンテナ内に納まる部材を中心に運んでいますが、コンテナサイズに合わせた部材設計や、より大型の部材を運ぶことができる無蓋コンテナの利用も検討していきます。



川越工場から輸送されたPC部材を広島県の建設現場で組立て

工場や建設現場では通常、クレーンを使ってPC部材の揚重作業を行っており、無蓋コンテナを使うことで同様の作業が可能になります。当社ではセグメントと呼ばれているトンネル用の土木部材も製造しており、それらの運搬にも適用できるのではと考えています。ただ、専用の無蓋コンテナを利用していくためには、往復利用など効率を高める必要もあるため、同業他社との連携なども検討する余地があるのではないかと考えています。

鉄道コンテナ輸送は、大成建設グループが掲げる環境方針にも沿っているほか、「物流の2024年問題」への対策、当社の課題だったPC工法比率の拡大といった課題への解決方法として“いいことづくめ”だと考えています。今後も製造と運び方の両面から鉄道コンテナ輸送の拡大にチャレンジしていきます。



For a Lively World

大成ユーレック株式会社

1963年8月1日に、大成建設の子会社として設立。自社工場で製造するPC部材を用いた集合住宅の建設を中心に事業を展開。本社は東京都港区虎ノ門、資本金は45億円、売上高は357億円（2023年3月期）。従業員数は466名で、うち一級建築士は82名（2023年3月末現在）。